

【電動マルイカスタイル】



①大たいていまで



②ゼロテンションでも曲りでも  
頭合わせ



③竿を上げたところタッチ  
ドライフロン



④竿を下げたところ「波」の強さ  
により「乗っ」ているから「か」  
がよく分かる



飯田さんのおすすめは中間速17.0これでワグ  
タッチの巻き合わせができる



マルイカの作法

遅れないこと。巻き落とすこと。  
そして扱いやすい道具を使うこと。



高強度カーボン  
ソリッド「タフテック」の強度を保ちつつ、しなやかで繊細な曲がりを実現させた「タフテック」穂先を搭載



スピットと自由底を両立させたX  
シートフロントトリカー搭載

【リアランサーマルイカ82SS155】

◎「タタキからゼロテンションへ移行する際、穂先の振れがすぐに止まるため、早いアタリを目でとらえることができます。また、オモリを底から離れた宙の釣りでも乗りがよく分かり、穂持ちから元が強いので合わせ遅れもなく感触がダイレクトで、乗り感がよく分かります。(飯田純男)」

●SPEC 全長1.55m、2本継ぎ、仕舞寸法86cm、自重87g、先径0.75mm、オモリ負荷10～60号、カーボン含有率91.3%

「僕は以前から浅場のマルイカ釣りでも電動リールを使っていました。電動で巻くと、乗り感が分かりやすく、回収と再投入、巻き落とすも苦になりません」

投入合図に合わせてオモリを投げ入れ、乗りがなければ10メートルほど電動で巻き上げて落とす。この基本をこなすために電動リールを積極的に使うのが、飯田さんのスタイルだ。

小湊前の水深50メートルでようやくアタリが続くようになる。今日一番の時合が訪れた。

「乗りました。あ、外れた。マルイカはいるのに、なかなかしつかり掛けれませぬね……」

波はとんとん高くなる。オモリを海底に着けても、すぐに持ち上げられてしまうからゼロテンションは難しい。